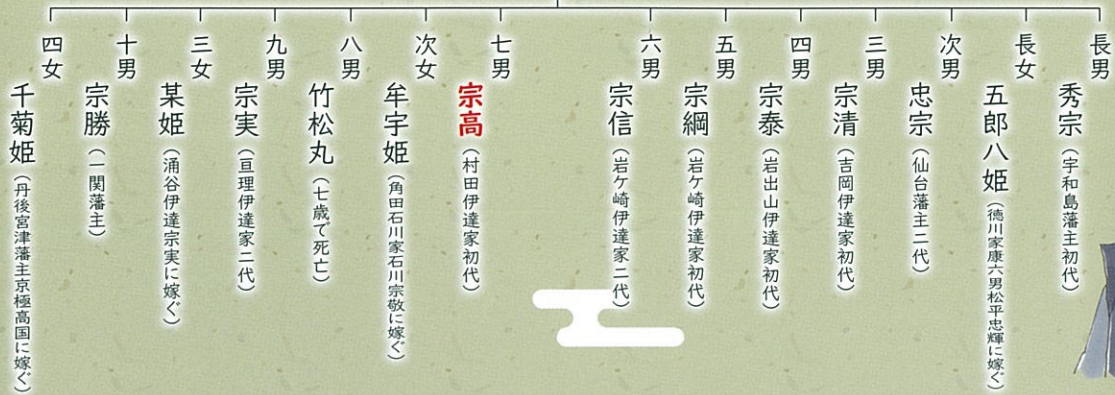


宗高の兄弟たち

仙台藩主初代
伊達政宗



宗高物語



宗高は、慶長12年(1607)、仙台藩主伊達政宗の七男として、仙台で生まれた。母は伊達家の家臣柴田宗義の娘阿山の方(おやまのかた)である。慶長18年(1613)、数え七歳で村田の領主となった。



蔵王は、これまでに何度も噴火している活火山である。元和9年(1623)4月に始まった蔵王刈田岳の噴火は、ふもとの地域に火山灰や小石が降り、大きな被害をもたらし、領民の不安と恐れが続いた。



寛永元年(1624)、政宗の命を受けて刈田岳に登り、「この身はどうなってもかまわない。どうか噴火をやめさせ、万民の苦しみを除かせ給え」と天に命願した。すると、噴煙鳴動は次第に鎮まり、ついに噴火がとまった。



宗高の勇気ある行為は尊いものであると、多くの領民はこの若い領主を敬慕した。しかし、寛永3年(1626)年、父政宗にともなわれ上洛し、朝廷から官位を授けられた後、京都にて天然痘により二十歳の若さで客死した。



領民は、肉親を失ったように悲しんだが、宗高の分も必死に生きようと誓った。刈田岳山頂には、宗高命願跡石碑が建立されている。また、菩提寺の龍島院では、命日の八月十七日、花火大会が開催されている。村田の英雄の宗高のことを、忘れないために…。



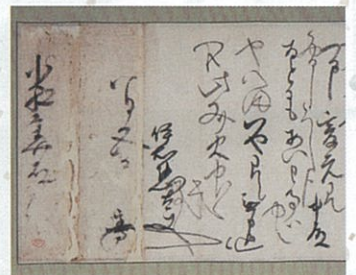
毘沙門天像(龍島院所蔵)

宗高が政宗から守護仏として譲り受けた鎌倉後期の銅製のもの。底に「正和元年八月三日」(1312年)の紀年銘がある。



茶釜(龍島院所蔵)

宗高が常用していた茶道用茶釜。龍島院の火災の後に、土中から掘り出されたもの。



伊達宗高書状(龍島院所蔵)

家臣の小泉重介へ宛てた宗高の自筆書状。政宗の筆跡とよく似ている。(写真は、書状の一部)

関連事業

文化財めぐり

「伊達宗高の面影探し
—村田城と龍島院を歩く—」

日 時/11月12日⊕

午後1時30分～3時30分

集合場所/村田町歴史みらい館

人 数/30人

参加費/無料

参加申込/10月4日⊕から、

歴史みらい館まで電話で申込み